



ピースデポ

平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人: 湯浅一郎 / 住所: 〒223-0062 横浜市港北区日吉本町 1-30-27-4 日吉グリーンビル1F
TEL: 045-563-5101 / FAX: 045-563-9907 / E-mail: office@peacedepot.org
郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

No.45

2019.11.25

「脱軍備・平和レポート」・「ピース・アルマナック（仮）」を刊行します



新メディア「脱軍備・平和レポート」の紙面イメージ

ピースデポの再生に向けて、 2020年度は事業の刷新を はかります

共同代表 湯浅一郎
山中悦子

ピースデポの活動に対しましての日ごろのご支援ご協力に感謝申し上げます。

皆さまにはお元気で活躍のことと思います。ピースデポも2月の総会で承認された今年度の方針に基づき一年間各種事業に精力的に取り組んでまいりました。順調に成果を出す事が出来た事業もあれば、不十分な結果に終わった事業もありますが、与えられた条件の中でせいっぱいがんばってまいりました。モニターの定期刊行とともに、昨年末にスタートさせた「非核化合意履行・監視プロジェクト」の発行・継続は会員の皆さま方にご納得いただけるものであったと思うところですが、いかがでしたでしょうか？また、外務省への要請行動、NPT再検討会議準備会への参加等は実施致しましたが、気にかけてきたものの、未だ半ば、または手つかずの事業もあります。

原因の一つは仕事量に人的手当てが追いつかない状況があったことがあげられます。この仕事量と人的手当てのアンバランスは以前から課題とされていたことで解決に向け対応が迫られています。加えてピースデポは世代交代を積極的に進めなければならない時期を迎えています。そこで解決に向けた試みとして来年度からの事業を抜本的に見直し、若手中心に展開する計画を立てました。

以下、理事会として見直しを行っている来年度以降の事業の変更について、出版事業に関する部分についてのみ、現段階の計画をお知らせ致します。次年度の会費納入と密

接に関係するものなので、このような手順を踏むこととなりました。来年2月の総会にお諮りして決定されます。

I. 7本の柱の維持

ピースデポは発足当初に建てた7本の柱を堅持することを、今後とも活動の基本とします。

- 1 市民の活動や平和教育に役立つ調査・分析をする平和問題のシンクタンクをめざす。
- 2 軍勢力が平和を担保するという常識が支配する世界の現況を変えるために、世界のNGOと連携した活動をめざす。
- 3 平和憲法、侵略戦争への反省、原爆体験などを基礎に、アジアの一員として日本の市民が平和のために果たすべき役割を追求する。
- 4 一次資料に基づく正確な情報、わかりやすい分析を重視した活動をする。
- 5 防衛・外交に関する行政の情報公開を前進させる。
- 6 草の根活動と専門家集団との新しい協力関係をめざす。
- 7 「法人化」を活かし、平和活動NGOの社会的評価を高める。

II. 「核兵器・核実験モニター」の休刊と 新メディア「脱軍備・平和レポート」刊行

「核兵器・核実験モニター」の休刊

モニターは1995年以来隔週発行を続け、11月末で580号に達しました。タイムリーなトピックを取り上げ、正確さを期した

充実した内容を提示するためには、かなり高度な力を必要としてきました。これまで多くの方々のご協力のもと努力してまいりましたが、昨今さまざまな機会に力不足を認識する場面に直面してきたことも否めません。ここで一旦「核兵器・核実験モニター」を休刊とさせていただきます。

新メディア「脱軍備・平和レポート」の刊行

モニターに代わり、新メディア「脱軍備・平和レポート」を発行します。このレポートは年6回の発行とします。編集長にはピースデポ研究員の森山拓也が就任します。若い世代の創意と感性を編集に生かすことになります。同封しましたものが紙面イメージ版です。最終ページに詳細を記したスベックを掲載しましたのでご確認ください。

第1号の発行予定は2020年2月1日です。ご期待ください。

Ⅲ. 「ピース・アルマナック（仮）」を発行

「イアブック：核軍縮・平和——市民と自治体のために」に代わり、「ピース・アルマナック（仮）」を発行します。「アルマナック（ALMANAC）」は年鑑ですが、データや統計を多く含むものです。核兵器や軍縮の動向の参考文献として、これまで通り自治体職員の方々をはじめ、多くの方々に手元に置いてご利用いただけるものと考えています。編集体制も一新するべく検討中です。

*

会員の皆さま方には、来年度は新メディア「脱軍備・平和レポート」及び「ピース・アルマナック（仮）」をもれなく全員にお届けすることになります。今後とも変わらぬお力をお寄せくださいますよう心からお願い申し上げます。

.....



朝鮮半島非核化に向けた日本政府の行動について外務省へ要請

（19年9月25日、外務省）

2020年核不拡散条約再検討会議を半年後に控えた第74回国連総会を前に、核軍縮の停滞を克服するために日本政府が今なすべきことを外務省へ要請しました。外務省からは、軍縮不拡散・科学部軍備管理軍縮課の菅谷正道主席事務官に対応いただき、ピースデポから参加した湯浅一郎共同代表、梅林宏道特別顧問、森山拓也研究員が、茂木敏充外務大臣への要請書を提出しました（「核兵器・核実験モニター」J577号に要請書全文）。

韓国統一研究院平和研究室のみなさんと懇談会

（19年10月15日）

韓国政府のシンクタンクである統一研究院のソ・ボヒョク平和室長と研究員ら合計5名がピースデポの事務所に来所し、日韓関係や日本政府の外交政策、北東アジアの安全保障問題について議論しました。ピースデポから梅林特別顧問と森山研究員が、韓国統一研究院からイ・キテ研究員が報告を行いました。発表の後には、安全保障問題だけでなく、ナショナリズムの意識など、幅広い話題に関して意見交換を行い、有意義な時間を持つことができました。



活 動

報 告



横須賀ピースフェスティバルに参加

（19年10月20日、横須賀三笠公園）

反核・平和・反基地運動に取り組む市民団体や労働組合が集まる「横須賀ピースフェスティバル」に湯浅一郎共同代表、山中悦子共同代表、森山拓也研究員、山口大輔さん（前ピースデポ研究員）が参加しました。団体ブースを出展した他、森山研究員がステージでスピーチを行い、ピースデポの活動を紹介しました。会場には地元の団体として、呉東正彦ピースデポ監事や佐藤治ピースデポ理事もおられ、大活躍されていました。

「非核化合意履行・監視プロジェクト」が1周年



プロジェクトのブログ QR コード



非核化合意履行・監視プロジェクト

Citizens' Watch for a Fair Implementation of
Korean Peninsula Denuclearization Agreements

2018年11月14日、ピースデポは新プロジェクト「北東アジア非核兵器地帯へ：朝鮮半島非核化合意の公正な履行に関する市民の監視活動（略称：非核化合意履行・監視プロジェクト）」を立ち上げました。南北板門店宣言（2018年4月27日）と米朝シンガポール共同声明（同年6月12日）が誠実に履行されるには、関係国の忍耐強い外交努力とともに、市民が果たすべき役割が極めて大きいと考え、平和団体が外交の進展を注意深く監視しつつ、誤ったメディア報道をただし、政府や広く市民社会に伝える必要があるとの思いから開始したものです。そのプロジェクトが一周年を迎えました。

不定期に「監視報告」を発行し、韓国語訳、英語訳と3か国での発行を続け、それをブログと同時にメールマガジンで発信しました。「監視報告」はこれまで16号発行しました。発足から1年、海外からワークショップへの参加要請などの声がかかるような反響も出てきています。

これからも、外交努力の進展を注意深く監視しつつ、今回の米朝、南北の画期的な動きの重要性を訴え、過去の朝鮮半島非核化交渉に関する正しい理解とそこから得られる教訓を生かすことを政府や市民社会に伝えていきます。

「よこはま夢ファンド」を通したご寄付、より一層のご協力をお願いします！

2016年度から始めた「よこはま夢ファンド」を通じてのご寄付は順調に拡がり、2018年度、2019年度はともに約200万円になりました。お蔭さまで活動のいっそうの充実を図ることができましたこと、深く感謝申し上げます。2020年へ向け、より一層のご協力をお願いいたします。

- 2,000円のご負担でピースデポへ多額のご寄付が出来ます。（所得税・住民税控除が受けられます）
- 「返礼品」はピースデポが取り組む核兵器廃絶と戦争のない平和な世界づくりへの活動の成果！
- インターネットを利用したクレジットカード払いもできます。

「よこはま夢ファンド」はふるさと納税横浜版。市民の寄

付でNPO法人の活動を支える横浜市の基金（2005年創設）です。市内在住者に限らず全国どこにお住まいの方でもピースデポに寄付することが出来ます。

寄付相当額（自己負担分の約2千円を除く）が税金から減額されます。実質的に2千円前後の支出で、その何倍、何十倍もの寄付金をピースデポに届けることができます。

ちょっと面倒・とか、一時立て替えのご負担があるかと思いますが、ぜひ一度トライしてみてください。

よこはま夢ファンドのwebから寄附申し込みフォームを開いてお手続きください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyodomanabi/shiminkyodo/shien/yumefund/kifu/kihumsuzikomiso.html>

メディアに登場したピースデポ

- ①「非核化や「拉致」進展に期待の声」梅林特別顧問のコメント掲載(朝日新聞、7月1日)
- ②「課題山積 未来問う 平和の持続 チェックを」梅林特別顧問のコメント掲載(神奈川新聞、7月5日)

① ↓

非核化や「拉致」進展に期待の声

米朝会談

物別れに終わった前回の米朝首脳会談から4カ月、初めて北朝鮮に入ったトランプ大統領が、協議再開する考えを示した。国内で非核化と拉致問題の解決を望む人たちは、不安を抱きながらも事の進展を期待する。

「朝鮮戦争の終結に向け一歩として非常に重要な外交を示している」と、平和・軍縮問題に取り組むNPO法人「ピースデポ」の特別顧問、梅林宏道さんは、(8)は「(1)で自己に重要な意味を持つ、具体的な進展はないが、第一歩となった」と評価した。ただ、非核化に向けた協議は「あまり期待できない」と、トランプ氏の外交姿勢を評価した。

2017年にノーベル平和賞を受賞した「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)の国際運営委員、川崎恵子さん(90)も歓迎する。2年前に採択された核兵器禁止条約のような法的拘束力のある条約まで持っていくかという点について注目を集めた。

首脳会談後の会見では、拉致問題について言及はなかったが、拉致被害者家族からも会談が前進にどうなるかが注目された。

北朝鮮による拉致被害者有本恵子さんの父明弘さん(90)は、神戸市の自宅で会談を見守った。(9)は「問題解決の機は熟している」と、最終的には、安倍首相が拉致問題について話をする三首相が前向きな話をするのを待たなければならない」と期待を込めた。増えるみずさの弟、照明さん(93)は、トランプ氏が9月に拉致被害者家族と会ったことを歓迎し、「家族の悲しみも十分わかってもらっている」と、今後の進展に期待を込めて話した。

江さん(88)は「北朝鮮の問題は何かと聞きかじりな話で、動いたのだから」と、トランプ大統領の考えと想像をめぐらせた。こう語った。「よい動きにつながれば、いつか希望を持って折り返す」

④ ↓

NPT会議向け核軍縮主導要請

外務省にピースデポ NPO法人ピースデポ(横浜)は、来年度の核拡散防止条約(NPT)再検討会議に向け、日本が核軍縮へのリーダーシップを発揮するよう外務省に要請した。

湯浅一郎共同代表と梅林宏道特別顧問が同省を訪れた。

湯浅氏によると、賞合氏は「核廃絶」という目的は同じだが、そこに至る手段や考え方が違う」と述べたという。湯浅氏は「唯一」の戦争被爆国である日本が、核軍縮を巡る現状打開の役割を担うべき」と強調した。

② ↓

課題山積 未来問う

ピースデポ・梅林特別顧問 平和の持続チェックを 9条改憲

足元から

「9条改憲」は、平和の持続に大きな影響を与える。梅林特別顧問は、改憲の是非をめぐって、市民生活への影響を指摘した。

「改憲は、平和の持続に大きな影響を与える。梅林特別顧問は、改憲の是非をめぐって、市民生活への影響を指摘した。」

「改憲は、平和の持続に大きな影響を与える。梅林特別顧問は、改憲の是非をめぐって、市民生活への影響を指摘した。」

市民生活へ影響必至

自動車 米輸入関税維持 為替 ドル安策導入 安保 軍事協力を強化

「市民生活への影響は必至」と梅林特別顧問は指摘した。改憲は、市民生活に大きな影響を与える。梅林特別顧問は、改憲の是非をめぐって、市民生活への影響を指摘した。

「市民生活への影響は必至」と梅林特別顧問は指摘した。改憲は、市民生活に大きな影響を与える。梅林特別顧問は、改憲の是非をめぐって、市民生活への影響を指摘した。」

③

イアブック「核軍縮・平和2019」 —市民と自治体のために

12月発売

監修:梅林宏道/編著:NPO法人ピースデポ A5判 発行:緑風出版

会員価格1600円
一般価格1900円
(ともに+送料)

【特別記事】 朝鮮半島の非核化と日本/監視報告(1~16号)/防衛大綱トピック:トランプ政権の核軍事戦略など新資料29点!!